

深い学びにいたる授業

～「深い学びの技法」を基に構成する

学習過程に着目して～

「深い学びの技法」を基に学習過程の充実を図る

①「深い学び」とは？

「深い学び」とは、生徒が学習内容を獲得する中で、既知の知識や技能を課題などに関連付け、精緻化するなど、思考や認識が高度化している様相をいいます。

②「深い学び」に向かうためには？

県中教研では、生徒が「深い学び」に向かうために、「深い学びの技法」を基に学習過程の充実を図ることに着目しています。生徒は学習内容を獲得しながら、「深い学びの技法」を活用し、思考や認識を高度化していきます。そのために、教師はそれが可能となる学習過程を構想するのです。

③ 単元・題材や授業 をどのように組み立てますか？

下の図のような学習過程で、生徒は学習内容を獲得しながら、資質・能力を存分に活用・発揮していきます。

そのために、教師は、生徒が「深い学びの技法」を活用できるように手立てを講じるのです。

学習過程を通して、生徒は学習内容を精緻化、概念化、身体化することで理解を深め、その結果、資質・能力を異なる状況でも活用・発揮できるようになります。

次の3つの学習過程に応じて、手立てとなる「技法」が下表のように整理できます。

- ①学習対象に対する目的や課題、見通しをもつ「設定」の過程
- ②課題解決を図る「思考・解決・表現」の過程
- ③学んだことを俯瞰したり、振り返ったりする「評価」の過程



過程	「深い学びの20の技法」
設定	①学んだ知識を活用して課題や目標を設定する
	②知識やデータに基づいて仮説の設定や検証をする
	③視点・観点・論点を設定して思考や表現をする
	④ R-PDCAサイクルを設定して活動や作品を改善する
思考	⑤資料やデータに基づいて考察したり検証したりする
	⑥複数の資料や観察結果の比較から結論を導く
	⑦視点の転換や逆思考をして考える
	⑧異なる多様な考えを比較して考える
解決	⑨学んだ知識や技能を活用して思考や表現をする
	⑩仲間と練り合いや練り上げをする
	⑪原因や因果関係、関連性を探る
	⑫学んだ知識・技能を活用して事例研究をする
表現	⑬理由や根拠を示して論理的に説明する
	⑭学習モデルを活用して思考や表現をする
	⑮自分の言葉で学んだことを整理しまとめる
	⑯要素的な知識や知見を構造化・モデル化する
評価	⑰既製の資料や作品を批判的に吟味検討する
	⑱身につけた資質・能力をメタ認知し成長につなげる
	⑲学習成果と自己との関わりを振り返る
	⑳学んだことを生かして、次の新しい課題を作る

【参考・引用文献】

- 田中 博之 (2023) . 「中学校における深い学びの在り方とこれからの授業改善の方向」『新潟県中学校教育研究会 授業情報誌Class』8号, pp.6-12.
- 田村 学 (2024) . 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた『個別最適な学びと協働的な学び』の充実『新潟県中学校教育研究会 授業情報誌Class』9号, pp.6-13.
- 石井 英真 (2025) . 「『中核的な概念』を軸にした深い学びの実現」『新潟県中学校教育研究会 授業情報誌Class』10号, pp.6-13.